

様式記入例

平成24年度～ ○○立○○高等学校 個別の教育支援計画

No. 1

○本人にかかわる基本事項

初回記入者氏名：		初回記入年月日：H 年 月 日	
担任氏名	1年： ○○○	2年：	3年：
ふりがな	-----	性別	生年月日
生徒氏名	○○○○	( )	平成 年 月 日
出身中学校	立 中学校 電話 ( )		
生徒の住所	〒 - ○○○○○		
保護者 (続柄)	○○○○	緊急連絡先	
保護者住所	〒 ○○○○		
家族構成	続柄	氏名	職業・学校等
	○○	○○○	○○○○
	○○		
医療機関		診断等	
通院の有無〔(有)・無〕 医療機関名：○○病院○○科 主治医：○○Dr.		医師による診断の有無〔(有)・無〕 診断名：高機能広汎性発達障害 診断年月：平成○○年○○月 手帳：無し	
通院の状況：最近では、○年の○月に中学校のす 服薬の状況：調子が悪い状況が続くときには、不 すめで病院へ行った。本人は嫌がる。現在は不定 安や緊張、興奮などの精神症状を改善する薬を処 方に通院。方されたことがあるが、現在は服薬していない。			
生育歴・療育・教育の状況等			
生育歴 および 療育・教育 の状況	○ヵ月…幼稚園に入園。人見知りを全くしない。 ○歳半検診…ひどいかんしゃくを起こし、自傷行為も見られたので○○○の受診を勧められる。その時点では診断はつかず、言葉が遅いので心理訓練から始める。 ○歳頃…気持ちの切替が難しく幼稚園で時々パニックを起こす。教員が1対1で対応し、集団行動も落ち着いてくる。家庭では手をかむなどの自傷行為を繰り返すことがあった。 ○歳…高機能広汎性発達障害の診断を受ける。 小学校入学後…特に問題なく過ごす。○年生の時に学校の塀から飛び降りて右手を骨折するなど、交通事故によるものを含め、けがをすることが多い。 中学校入学後…仲の良い二人の友達と登下校を共にし、囲碁将棋部に所属。新しい友達を作るのは苦手。1、2年は特に問題なく過ごす。3年生になり、テキストなどの紛失がきっかけで、友達との関係が悪化する。しばらく学校カウンセラーの先生に週に1時間程度悩みを聞いてもらう。少しずつ普通に学校生活を送れるようになる。		
検査結果等	WISCⅢ(中央児童相談所にて平成○年○月) 全IQ=110、VIQ=115、PIQ=102		

**○保護者・中学校からの引き継ぎ事項**

高校入学時の本人・保護者から	
<p>本人</p> <p>(・本人は自分の診断については知らない。)                      ・勉強をがんばりたい、友達を作りたいと強く思っているが、授業についていけないのか非常に不安がっている。                      ・クールダウンの場所として保健室のスペースを自分で見て確認している。</p>	<p>保護者</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・母親から養護教諭に申し出があった。</li> <li>・本人に障害について告げる時期は医師と相談して決めるので口外はしないでほしい。</li> <li>・決められたことを守ることは基本的にできるが、はっきり決められていないことに対して臨機応変に対処することが苦手。</li> <li>・新しい状況にはなかなかなじめない。</li> <li>・相手の気持ちがなかなか読み取れない面がある。</li> <li>・上級生や発言力の強い人は苦手で、その人の言いなりになってしまうところがある。</li> <li>・感情のコントロールが難しい面がある。</li> <li>・本人の感性を大事にしたいが、仲間はずれやいじめの対象にならないか心配。</li> <li>・何かあったときには手助けをお願いしたい。また些細なことでも連絡がほしい。</li> </ul>

※入学時の希望だけでなく、本人の特徴にかかわること（得意なこと、苦手なこと、落ち着く場所や方法、パニックになった時の対応等）を記入しておく。

中学校（その他関係機関）からの引継事項		
	本人の様子	今まで行われてきた支援
学 習	・ぶつぶつ独り言を言って周囲に不快感を与えることが多くあった。	・授業中は集中し、周りに迷惑をかけないようにさせるため、ルールを紙に書いて知らせ、約束とされていた。
行 動	・周囲が見えず、集団行動は困難 ・休み時間の廊下や下校時など周囲とのトラブルが常に心配された。	・常に学級担任やそばに寄り添うよう努めるとともに、仲の良い友達の力も借りて、トラブルを避けた。
対 人	・言われたら言い返さなければ気が済まない。難しい言葉を使って言うので、余計に相手を刺激してしまい、こじれることが多い。	・言葉や態度が原因でトラブルになることが多く、それを仲裁するために教員が間に入ることが多かった。
そ の 他		

平成24年度 ○○立○高等学校 個別の教育支援計画 №.2

記入年月日 平成24年○月○日

記入者氏名 ( )

生徒氏名： 年 ( )

現在の様子及び支援 (○保護者、※他の機関からの連絡事項も含む)			
	現在の様子	現在行っている支援	
学 習	<ul style="list-style-type: none"> <li>・まじめでしなければならないことはきちんとこなそうと努力する。多くの教科においてノートはきちんととっており、課題などは基本的には提出できるが、期日に遅れると精神的に不安定になることがある。</li> <li>・特定の教科（特に日本史）については、反抗的な態度をとることもあり、課題の提出が極端に少ない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・突然の変更などには対応しづらく混乱することがあるのであらかじめ指示を明確に出す。</li> <li>・学習のルールや順序、優先課題などについて、プリントなどにより文字にして目に見える形で知らせることが有効。</li> <li>・日頃から授業担当者間等での共通理解と情報交換は必須であるが、特に調子の悪いときにはそのことを知った上での声かけが必要。</li> </ul>	
行 動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一人で過ごすことが多いが、複数の仲の良い友人とは話ができる。</li> <li>・臨機応変にものごとに対処していくことが難しい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特に手を打てていない。</li> </ul> <p>(※本人の要望と保護者の要望を聞きながら、スクールカウンセラーとも相談し、学年で話し合いをし、校内委員会でも必要な支援について検討し、2学期はじめには個別の教育支援計画に記載すると共に、保護者とも懇談時に相談、共通理解する。)</p>	
対 人	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他人とコミュニケーションをとりづらい。(保健室では、「一人でもいい」と言うことがある。)</li> </ul>		
そ の 他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・部活動において、大きな大会などがあると不安になる。</li> <li>・複数のことを同時にこなすことが難しくストレスになっていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・担任とコーディネーター、部活動の顧問、教科担当等の関係する教職員間で連絡を密にし、連携を図る。保護者からの情報など、本人に配慮すべき情報についても、共有して必要な支援を検討する。</li> </ul>	
将来の生活・現在の生活についての希望 (将来◎・現在○)			
本 人	<ul style="list-style-type: none"> <li>○部活動と勉強との両立を図ること。</li> <li>◎大学への進学を希望。</li> </ul>	保 護 者	<ul style="list-style-type: none"> <li>○トラブル等あったときには、本人の特性を理解した上で手助けをお願いしたい。また、家庭にもすぐに連絡がほしい。</li> </ul>

支援の目標 (長期◎・短期○)
<ul style="list-style-type: none"> <li>◎優先順位を確認して落ち着いて生活することができる。(スケジュール管理・計画的行動)</li> <li>○確認する習慣を身につけ、課題等の提出を確実にする。(提出物の向上。締め切りに間に合わなくても引き続き取り組み、提出ができるように。)</li> <li>◎困ったときに自分から発信できる力を身につける。(悩みを周囲に相談できる力。アドバイスを求めやすくする。)</li> <li>○集団での活動の際や、複数の活動や役割をこなす際などに、教師等と相談しながら不安なく活動に臨むことができる。</li> </ul>

記入年月日 平成24年〇月〇日

記入者氏名 ( )  
 生徒氏名： 年 ( )

支 援 内 容			
	現状と課題	具体的な配慮・対応・支援策	
現在の課題	状況 ・複数のことが重なったり、学校行事や部活動の大会などがあると不安定になる。 ・未提出物のある教科での対応が課題。 背景 ・臨機応変に対応することが苦手。 ・他人とコミュニケーションを取るのが苦手。	担任・学年団 学年団による共通理解。 学校 部活動顧問との連携。 家庭 連絡を密にとっていく。 その他 カウンセラーに支援のあり方を相談。	
学校	学 習	・予習や課題などはきちんとこなしていけるが、提出物が遅れるなどすると不安定になりやすい。 ・口頭説明だけだと、聞き漏らしていることがある。	・音声指示による一斉指示では伝わらないこともあるので、本人が混乱しないように文字にして示すなど明確な指示を出していく。
	行 動	・行事等で、友達の手に入るか、活動に共に取り組めるかが心配である。	・担任の方でグループ作り(理解あるメンバーを考慮する)などのサポート。
	対 人	・クラスや部活動の雰囲気になじめないことがある。	・養護教諭や担任にその思いは伝えられるので、気持ちを受け止めるとともに、仲の良い友達をサポートについて日頃から働きかけをする。
	そ 他	・部活動の時、〇〇の仕事を任されていたが、それを負担に感じ、不安定になることが見られた。	・(部活動の顧問)別の仕事を任せるなど、役割を軽減する。(→〇月〇日～支援の結果、本人の表情が良くなり、意欲的になることができた。)
家庭	母親自身がどう対応してよいか分からない時がある。 (そういう時は大抵、学校で何かありましたか、と尋ねてこられる。)	・保護者との連絡を密に行っていく。 ・要望を聞きながら対応していく。 ・窓口は担任とするが、学年内で問題を共有し、必要に応じて教科担当等の理解も得るよう学年がチームで当たる。	
地域			
関係機関	スクールカウンセラーに相談。(〇〇SC)	・どういう時に、どういう場面で何が苦手かを障害特性の面から確認。 ・母親と綿密に連絡をとりながら、障害特性を踏まえての個への対応を大切にする。	
支援会議の記録			
[日時] H23年〇月〇日  H23年〇月〇日 H23年〇月〇日	[参加者] 学級担任、学年主任・ 養護教諭 教育相談係・保護者	[協議内容、確認事項等] 本人の状況と今後の支援の在り方について確認。	
支援内容の評価			